

科目番号 77

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	成人看護学臨地実習Ⅲ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 45 時間 / 9 日間			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前期	
履修条件	<b>有</b> ・ 無 (1, 2 年次科目のすべての単位取得 )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉</p> <p>各健康段階にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護の実際を学ぶ。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各健康段階にある成人の特徴を理解する。</li> <li>2. 各健康段階にある成人のための療養環境を理解する。</li> <li>3. 各健康段階にある成人に対するチームアプローチの実際を理解する。</li> <li>4. 各健康段階における成人看護の役割について考え、看護観を深めることができる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
終末期 ホスピス 3.0 時間	①各健康段階にある成人の特徴を理解する	ホスピス見学実習 ・ 看護師、チャプレン、薬剤師、ボランティアからの説明 ・ 施設見学 *詳細は実習要項参照	臨地実習	専任教員
慢性期 透析室 7.5 時間	②各健康段階にある成人の療養環境を理解する ③各健康段階にある成人のチームアプローチの実際を理解できる	透析センター見学実習 ・ 透析療法をうける対象とのコミュニケーション ・ 透析の仕組みについて説明 ・ 透析の実際を見学 *詳細は実習要項参照	臨地実習	専任教員
回復期 回復リハビリテーション 病棟 6.0 時間	④各健康段階における成人看護の役割が理解できる	回復リハビリテーション病棟見学実習 ・ 急性期を脱し回復期にある対象の療養環境を見学する ・ 病棟看護師、地域連携室、理学療法士、作業療法士の説明 ・ 理学療法中の対象とのコミュニケーション *詳細は実習要項参照	臨地実習	専任教員
急性期 救命センター 7.5 時間	⑤死への過程にある成人に対する心理的苦痛を和らげる援助の実際を理解できる	救命救急センター見学実習 ・ 初療室、救命病棟の見学 *詳細は実習要項参照	臨地実習	専任教員

時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
学内実習	①各健康段階における看護が理解できる	学内グループワーク等 ・各健康段階における看護の役割についてグループでまとめる *詳細は実習要項参照	学内実習	専任教員
授業内訳	終末期：ホスピス 3.0 時間 ( 0.5 日間) 慢性期：透析センター 7.5 時間 ( 1 日間) 回復期：回復リハビリ病棟をもつ施設 6.0 時間 ( 1 日間) 急性期：救命救急センター 7.5 時間 ( 1 日間) 学内実習：21 時間 (3 時間×1 日間、6 時間×3 日間)			
<b>準備学習等</b>				
<予習について> ・成人目的対象論の内容を復習して臨むこと ・成人看護方法論Ⅱ，Ⅲ，Ⅳの内容を復習して臨むこと ・事前学習課題あり *詳細は実習前オリエンテーションにて提示				
成績評価の方法	実習評価表（評価基準）に沿って、実習記録（出席時間を含）を含む実習の全過程を評価。 成績評価の基準：60 点以上を合格 80 点以上 100 点まで A 70 点以上 80 点未満 B 60 点以上 70 点未満 C の評価となる。60 点未満は再試験を受験し 60 点以上を合格 評価は C となる			
テキスト	小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 2019 安酸史子他編：ナースング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]腎・泌尿器 医学書院 2019 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]腎・泌尿器 医学書院 2019 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 2018 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			
参考図書	宮脇郁子他編著：看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 慢性看護 メジカルフレンド社 山勢博彰他編著：看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 メジカルフレンド社			
備考	各健康段階における看護を学ぶ実習である。3 年次の領域別実習のスタートとして、各健康段階の看護を考え、自身の看護観を養う機会としたい。			
国家試験出題基準	成人看護学 目標Ⅱ-3-A～C 目標Ⅱ-4-A, B 目標Ⅲ-6-A～D 目標Ⅳ-7-A～E 目標Ⅴ-8-A～D 目標Ⅵ-9-A～C			

科目番号 78

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	成人看護学臨地実習Ⅳ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位/ 90 時間 / 12 日			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期	
履修条件	<b>有</b> ・ 無 (1、2 年次科目のすべての単位取得)			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉 急性期にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護が実践できる。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある成人とその家族について理解できる。</li> <li>2. 周手術期にある成人に対し、術前・術中・術後の個別性のある看護過程を展開する。</li> <li>3. 周手術期にある成人に合併症予防・二次的障害予防・生活機能回復にむけた援助をする。</li> <li>4. 周手術期にある成人の問題解決に向けて、医療チームの連携やチームの一員としての役割を理解できる。</li> <li>5. 実習での経験から自己の看護観を明確にし、発展させる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
7.5 時間/日 ×12 日  90 時間	<p>* 詳細は実習要項参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者を 1 名受け持ち、一連の看護過程を展開する</li> <li>2. 実習期間中に立案した看護計画を評価し、修正後に修正された看護計画を実践する</li> </ol>	<p>&lt; 実習構成 &gt;</p> <p>指定された実習施設 (実習病棟) に 5~6 名/グループ 構成で実施する。</p> <p>実習時間 : 8:00~16:30 うち病棟実習 : 9:00~16:00 (カンファレンス時間含む)</p> <p>* 手術直後の実習は、ICU・HCU 等にて実習の場合あり</p> <p>&lt; 期間内容 &gt;</p> <p>【一週目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟および手術室オリエンテーションを受け実習に必要な事項を確認する</li> </ol>	臨地実習	専任教員

時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
	<p>3. 手術室看護の役割が理解できる</p> <p>4. 手術室における麻酔導入～覚醒時の身体的変化の観察ができる</p>	<p>2. 情報収集を行い、対象の手術日に応じたアセスメントから看護上の問題点を抽出する</p> <p>3. 受け持ち患者に必要な看護を日々実践する</p> <p>【2週目】</p> <p>1. 看護計画を立案し、計画に基づいて日々看護を実践・評価する</p> <p>【3週目】</p> <p>1. 看護計画を修正し、修正した看護計画に基づき看護を実施・評価する</p> <p>2. 実習前に立てた自己の実習目標や評価の視点に沿って実習全体を評価する</p> <p>【手術室実習（1～3週の間）に実施】</p> <p>1. 術前訪問同行</p> <p>2. 手術室看護の実際を見学（必須）</p> <p>3. 全身麻酔導入～術中の状態観察～麻酔覚醒時の状態・状況観察</p> <p>4. 術後訪問同行</p> <p>&lt;日々の内容&gt;</p> <p>1. 1日の行動目標および計画を立案</p> <p>2. 計画に基づき援助を実施する</p> <p>3. 適時、簡潔・明瞭に報告・記録する</p> <p>4. 実施した援助を評価・修正する</p> <p>5. カンファレンスに主体的に参加する</p> <p>*詳細は実習要項参照</p>	臨地実習	専任教員
授業内訳	臨地実習：12日間（7.5時間×12 90時間）			
<b>準備学習等</b>				
<p>&lt;予習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学方法論Ⅱ（周手術期の成人の看護, 主な手術を受けた成人の看護）について事前学習して望むこと</li> <li>・受け持ち患者情報から、病名、既往歴をもとに疾患・検査・治療（術式）に関する学習をして臨むこと</li> <li>・事前学習課題あり *詳細は実習前オリエンテーションにて提示</li> <li>・実習前目標レポートあり *詳細は実習前オリエンテーションにて提示</li> </ul>				

成績評価の方法	<p>実習評価表（評価基準）に沿って、実習記録（出席時間を含）を含む実習の全過程を評価</p> <p>成績評価の基準：60 点以上を合格</p> <p>80 点以上 100 点まで A 70 点以上 80 点未満 B 60 点以上 70 点未満 C の評価となる。60 点未満は再試験を受験し 60 点以上を合格 評価は C となる。</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（実習病棟の診療科に順ずる）医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院</p>	
参考図書	<p>高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護第 3 版, 医歯薬出版株式会社</p> <p>根拠がわかる 成人看護技術 大地美也子著 メヂカルフレンド社</p>	
備考	<p>周手術期にある対象の看護を学ぶ。術前・術中・術後の過程でそれぞれの看護を学ぶ。手術見学は実習施設に応じて実施する。急性期は患者の回復過程が早い。そのため、術前から術後を想定した計画が必要である。</p>	
国家試験出題基準	<p>成人看護学</p> <p>目標Ⅱ-3-A～C</p> <p>目標Ⅱ-4-A, B</p> <p>目標Ⅱ-5-A～E</p> <p>目標Ⅳ-7-A～E</p> <p>目標Ⅴ-8-A～D</p> <p>目標Ⅵ-9-A～C</p> <p>目標Ⅶ-10-A～D</p> <p>目標Ⅶ-11-A～D</p> <p>目標Ⅶ-12-A～D</p>	<p>成人看護学</p> <p>目標Ⅶ-13-A～D</p> <p>目標Ⅶ-14-A～D</p> <p>目標Ⅶ-15-A～D</p> <p>目標Ⅶ-16-A～D</p> <p>目標Ⅶ-17-A～D</p> <p>目標Ⅶ-18-A～D</p> <p>目標Ⅶ-19-A～D</p> <p>目標Ⅶ-20-A～D</p> <p>目標Ⅶ-21-A～D</p>

科目番号 80

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	老年看護学臨地実習Ⅱ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位/	90 時間/	12 日	
授業の種類	講義	・ 演習	・ <b>実習</b>	・ 実験 ・ 実技
必修・選択	<b>必修</b>	・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期
履修条件	<b>有</b> ・ 無 ( 1,2 年次科目すべての単位取得 )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉</p> <p>老年期にある人の特徴を理解し、健康の段階に応じた看護を実践する能力を養う</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害のある高齢者の特徴を理解できる</li> <li>2. 健康障害のある高齢者の特徴を踏まえて健康上の問題を見出すことができる</li> <li>3. 高齢者がより健康な生活が営めるように、自律に向けた援助ができる</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームにおける連携や場に応じた看護の機能を理解できる</li> <li>5. 自己の看護を振り返り、高齢者にとっての QOL について考え、看護観を明らかにできる</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
回数 1 日 7.5 時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	1 週目目標 意図的なコミュニケーションか 図れ、対象の疾患・加齢に伴う 身体的影響が理解でき、優先順 位を考え問題点が抽出できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の生活の場となる病棟の構造、日課を説明できる。</li> <li>2. 老年期の特徴の理解ができる</li> <li>3. 患者に応じたバイタルサインの測定方法が実施できる。</li> <li>4. 身体的・精神的・社会的側面から情報収集が行える。</li> <li>5. 患者の状態にあわせてコミュニケーションがとれる。</li> </ol>	臨地実習	担当 教員
2・3		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 日常生活の話題から患者の入院生活に対する思いを理解できる。</li> <li>7. 入院前の生活習慣が理解できる。</li> <li>8. 現在の生活リズム、セルフケア能力が理解できる。</li> <li>9. 今まで行われた治療、現在行われている治療が理解できる。</li> <li>10. 現在の ADL が理解できる。</li> <li>11. 患者の状態に合わせた環境整備が行える。(安全・安楽・自立の視点)</li> </ol>	臨地実習	担当 教員

回数 1日 7.5時間	学習課題	学習内容	授業方法	担当
		12. 必要な情報を整理して患者を多面的に捉えられ、援助計画が展開できる。 * 対象の理解。情報収集状況を確認していく。全体像の確認	臨地実習	担当 教員
4		13. 患者および家族の疾患・障害や検査・治療に関する思いや生活への影響を知る事ができる。 14. 疾患や治療が患者に与える影響から問題は何かを考えられ、アセスメントにつなげられる（アセスメント・問題点抽出の方向性確認） 15. カンファレンスに積極的に参加して学びを共有できる。	臨地実習	担当 教員
5	2週目目標： 高齢者の疾患・加齢から心理・社会的役割への影響を理解し、個別性に合わせた援助が行える	16. 看護チームの一員として学生の役割・責任を理解できる。 17. 疾患や治療・加齢が患者に与える影響から問題を考えアセスメントが深められる。（方向性確認）身体的な問題点分かる 18. 計画に基づいて患者の安全を理解した援助ができる。（援助の実施状況・関わり確認）	臨地実習	担当 教員
6		19. アセスメントから問題点の優先順位が理解できる。 20. 患者に適応される社会資源・家族の役割が理解できる	臨地実習	担当 教員
7.8		21. 患者の個別性に合わせた日常生活の援助を計画し実施できる。（QOLにつなげられる） 22. 患者の状況に応じた計画立案が行える。（後半への問題の明確化、実施の準備ができる）	臨地実習	担当 教員
9.10	3週目目標： 高齢者の疾患・加齢に伴う影響について3側面より捕らえ、看護展開できる。	23. 患者の状態に応じた計画修正が行え実施できる（追加・修正・指導） 24. 看護計画の評価に基づく援助の実施と再評価（次週に向けて展開に対する指導）	臨地実習	担当 教員
11		25. 患者・家族・医療スタッフとの関わりの中で、生命の尊厳・人間性の尊重・自己概念について気付き、個別性に合わせた（安全・安楽・QOL）援助が実施できる。 26. 患者の状態にあった看護計画・実施・評価ができる。	臨地実習	担当 教員
12		27. 患者の状態にあった看護計画・実施・評価ができる。 28. 自分が行った援助に対しての学びの振り返りができる。（評価） 29. カンファレンスに参加し実習目標の達成の自己評価ができる。 30. 今後の実習への自己の課題が明確になる。まとめの会資料指導 31. 学びの整理、今後の課題の明確化 32. まとめ会の会についての指導	臨地実習	担当 教員

授業内訳	臨地実習：12日（1日7.5時間×12 90時間）	
<b>準備学習等</b>		
<p>1. 老年期の発達段階・発達課題、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と健康段階に応じた看護について復習する。自律への援助や自己概念、高齢者を支える家族やサポート体制についてまとめる。</p> <p>2. 老年看護の基本技術について復習する。 コミュニケーション、環境整備、休息・睡眠、運動、食、排泄、清潔への援助</p> <p>3. 「3年間で習得する看護技術」の老年看護学における技術項目については、習得するための学習・練習を行う。</p> <p>4. 老年期に代表的な機能障害や疾病について自己学習（メカニズム、検査、治療、看護）する。 視覚障害、聴覚障害、コミュニケーション障害、排泄コントロール障害、ADLの障害、長期臥床状態・廃用性症候群、老人性認知症・精神障害、骨粗鬆症、脳梗塞、虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧、肺炎、肝硬変、糖尿病、腎不全、老人性掻痒症、大腿骨頸部骨折変形性膝関節症、等</p> <p>*上記学習は、各自、実習場所に持参する。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象：事前課題、実習状況、カンファレンスへの参加状況、記録物、出席日数等により総合評価を行う。</li> <li>・老年看護学臨地実習Ⅱ 評価基準に則り評価</li> </ul> <p>成績評価の基準：60点以上を合格 80点以上100点までA 70点以上80点未満B 60点以上70点未満Cの評価となる。60点未満は再試験を受験し60点以上を合格 評価はCとなる</p>	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門Ⅱ老年看護学 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門Ⅱ老年看護病態・疾患論 医学書院</li> <li>・看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メジカルフレンド社</li> </ul>	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナーシンググラフィカ老年看護学②</li> <li>・系統看護学講座 基礎看護学[1] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</li> <li>・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</li> <li>・他、必要時提示する</li> </ul>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は統合実習（3年次後期）の履修前提条件となる。</li> <li>・詳細は実習要項参照</li> </ul> <p>実習施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JCHO 横浜中央病院</li> <li>・JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院</li> <li>・JCHO 相模野病院</li> </ul>	
国家試験出題基準	<p>必修問題</p> <p>目標：Ⅰ-3-B-a～e</p> <p>目標：Ⅱ-7-G</p> <p>目標：Ⅱ-8-16</p> <p>人体の構造と機能</p> <p>目標：Ⅰ～Ⅲ</p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進</p> <p>目標：Ⅰ～Ⅳ</p> <p>健康支援と社会保障制度</p> <p>目標：Ⅱ-5-A～C</p> <p>健康支援と社会保障制度</p> <p>目標：Ⅱ-6-G</p>	<p>基礎看護学</p> <p>目標：Ⅰ～Ⅲ</p> <p>老年看護学</p> <p>目標：Ⅰ～Ⅲ</p>

科目番号 81

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	老年看護学臨地実習Ⅲ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 45 時間/ 6 日間			
授業の種類	講義・演習・ <b>実習</b> ・実験・実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・選択	年次・開講時期	3 年次・前後期	
履修条件	<b>有</b> ・無 ( 1,2 年次科目すべての単位取得 )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・無 ( 看護師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉          老年期にある人の特徴を理解し、対象に必要な外来看護を実践する能力を養う</p> <p>〈到達目標〉          1. 外来受診する高齢者の特徴を理解する          2. 外来の機能・役割を理解し、外来診療に伴う高齢者への援助のあり方がわかる          3. 高齢者および家族を含めた健康教育・指導について理解する          4. 高齢者および家族に対する継続看護について理解する          5. 外来における保健・医療・福祉チームの連携を理解し、外来看護の役割を考えることができる</p>				
<b>授 業 計 画</b>				
回数	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1 (5 時間)	実習目的・目標の理解	実習オリエンテーション (合同 2 時間、施設別 1 時間、グループ別 2 時間)	学内実習	担当教員
2 (8 時間)	・外来受診する高齢者の特徴や健康段階 ・外来の機能・役割、診療環境がわかる	・外来の主な機能・役割、構造上の特徴 ・家族との関わりを含めた受診者の状況 ・看護体制、診察室の種類・使用目的 ・各外来の日課・週間予定 ・保健・医療・福祉スタッフとの連携など	病院実習	担当教員
3 (8 時間)	・外来受診の目的 ・高齢者と家族の日常生活	・高齢者の日常生活にある健康上の注意点を考え、意図的に情報収集する ・診療科で特徴的な疾患・検査から診療や検査における安全・安楽への配慮・援助の実際 ・安全・安楽に加えて高齢者の心理や価値観などを考慮した関わり ・継続看護の必要性	病院実習	担当教員
4 (8 時間)	・高齢者と家族への健康教育・指導		病院実習	担当教員
5 (8 時間)	・病院内外での連携、職種間の連携 ・継続看護の実際や保健・医療・福祉の現状と課題	・臨床講義をMSWより受ける ・まとめの会	病院実習	担当教員

回数	学習課題	学習内容	授業方法	担当
6 (8時間)	関わった事例をもとに意見交換	自分自身を含めて場面を客観視し、またグループメンバーの体験・経験を含めた学びの共有	学内実習	担当 教員
授業内訳	病棟実習：4日間(32時間)、学内実習：2日間(13時間)			
<b>準備学習等</b>				
<p>(1) 外来の機能と役割、外来看護の役割</p> <p>(2) 実習する診療科で扱われている主な疾患・治療・検査と看護 (内容は施設別オリエンテーション参照)</p> <p>(3) 継続看護</p> <p>(4) 高齢者をとりまく保健・医療・福祉動向</p> <p>(5) 老年看護学臨地実習Ⅱにおける事前学習・自己学習内容</p> <p>(6) 実習する病院の地域の特徴</p> <p>*上記学習は、活用できるようにまとめて、各自、実習場所に持参する。*必要時提出</p>				
成績評価の方法	<p>担当教員は、事前課題、提出された記録や出席状況・実習状況により一次評価を行い、実習指導者と協議し、老年看護学臨地実習Ⅲ評価基準で総合的に評価する。</p> <p>成績評価の基準：60点以上を合格</p> <p>80点以上100点までA 70点以上80点未満B 60点以上70点未満Cの評価となる。60点未満は再試験を受験し60点以上を合格 評価はCとなる</p>			
テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p> <p>看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術 メヂカルフレンド社</p>			
参考図書	必要時提示する			
備考	<p>学内実習、病棟実習の日程は入れ替わることもある</p> <p>施設によって実習の診療科は異なる</p> <p>実習施設(4病院 外来)</p> <p style="padding-left: 40px;">JCHO横浜中央病院</p> <p style="padding-left: 40px;">JCHO横浜保土ヶ谷中央病院</p> <p style="padding-left: 40px;">JCHO相模野病院</p> <p style="padding-left: 40px;">JCHO東京蒲田医療センター</p>			
国家試験出題基準	<p>必修問題</p> <p>目標Ⅱ-7-G-a～c</p> <p>老年看護学</p> <p>目標Ⅰ-1-A-a～c</p> <p>目標Ⅰ-3-A-a～c</p> <p>目標Ⅱ-5-A-a～c</p>	<p>老年看護学</p> <p>目標Ⅱ-5-B-a, b</p> <p>目標Ⅱ-5-C- a～c</p> <p>目標Ⅱ-6-F- a～c</p> <p>目標Ⅱ-6-G-a, b</p>		

科目番号 82

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	小児看護学臨地実習	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2単位/ 90時間/ 1日7.5時間/ 12日間			
授業の種類	講義・演習・ <b>実習</b> ・実験・実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・選択	年次・開講時期	3年次・前後期	
履修条件	<b>有</b> ・無（1, 2年次科目のすべての単位取得）			
担当教員名	実務経験の有無・実務経験内容			
	<b>有</b> ・無（看護師）			
	<b>有</b> ・無（看護師）			
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉 小児各期の成長・発達を理解し、健康を障害された小児と家族に対して看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な乳幼児期の成長・発達に応じた保育について理解する。</li> <li>2. 小児各期の成長・発達の特徴と小児をとり巻く環境について理解する。</li> <li>3. 健康障害をもつ小児とその家族に適切な看護ができる基礎的知識と技術を習得する。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
回数 (1日7.5時間)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1～4日	保育園実習で健康な小児の成長・発達が理解できる	・保育園の0歳～5歳児クラスに4日入り、保育士の指導・監督のもとに行動する。 保育園での園児の活動を観察し、健康な成長・発達が理解できる 幼児期の成長・発達に応じた遊びを指導のもと実践することができる 安全を守るために環境を整えることができる	保育園実習	専任教員
5～12日	・健康障害をもつ小児の成長・発達に及ぼす影響が理解できる ・日常生活における小児の安全を守ることができる ・入院や健康障害が小児や家族に及ぼす影響を踏まえ必要な援助を実践する。	・患児にあわせたコミュニケーション方法を選択し実践できる。 ・病棟の構造・設備、特殊性、防災対策について観察し考察する。 ・患児の発達段階に応じて起こりやすい事故を予測して安全を守ることができる。 ・ベッドおよび病室などを安全な環境に整える。 ・治療や日常生活における危険行動を予測し、計画を立案し、安全を守るための行動ができる。 ・体調を整え、患児へ感染させないようにする。 ・実践したことを適時報告して、患児の安全を守る。 ・受け持ち患児の看護計画を立案し実践する。	病棟実習	専任教員
	・医師・保育士・リハビリ等多職種との連携の必要性を理解する	・チーム医療の連携の必要性をカンファレンスや記録において表現する。 ・小児看護における看護の役割について表現する。	保育園実習 病棟実習	専任教員

授業内訳	保育園実習 4 日間 病棟実習 8 日間
<b>準備学習等</b>	
<p>小児看護学目的・対象論の講義が終了し、小児各期の成長・発達の特徴と小児を取り巻く環境について理解できている。</p> <p>小児看護学方法論Ⅰの講義が終了し、小児特有の疾病について理解できている。</p> <p>小児看護学方法論Ⅱの講義が終了し、健康障害のある小児と家族の看護を理解できている。</p> <p>小児看護学演習の単位修得できて、小児各期の具体的援助について理解できている。</p>	
成績評価の方法	<p>保育園実習記録・実習中子どもとの関わり・小児病棟実習記録</p> <p>成績評価の基準：60 点以上を合格</p> <p>80 点以上 100 点まで A 70 点以上 80 点未満 B 60 点以上 70 点未満 C の評価となる。60 点未満は再試験を受験し 60 点以上を合格 評価は C となる</p>
テキスト	<p>奈良間美穂他：小児看護学概論、小児臨床看護総論。医学書院。2018</p> <p>奈良間美穂他：小児看護学臨床看護各論。医学書院。2018</p>
参考図書	<p>添田啓子・鈴木千衣：小児看護技術、メヂカルフレンド社。2022。</p> <p>筒井真優美監修：小児看護学、日総研。2017</p> <p>山口桂子・柴邦代・服部淳子：小児看護ケア関連図。中央法規。2016</p> <p>蔵谷範子：関連図の書き方をマスターしよう。サイオ出版。2016</p> <p>山本恵子監修：写真でわかる小児看護技術アドバンス。インターメディカ。2017</p>
備考	
国家試験出題基準	<p>小児看護学</p> <p>目標Ⅰ～Ⅳ</p>

科目番号 83

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	母性看護学臨地実習	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位/	90 時間/	12 日間	
授業の種類	講義	・ 演習	・ <b>実習</b>	・ 実験 ・ 実技
必修・選択	<b>必修</b>	・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期
履修条件	<b>有</b> ・ 無 ( 1, 2 年次科目のすべての単位取得 )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 助産師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 助産師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 助産師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉 母性看護の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥期および新生児期の対象に応じた看護過程を展開し、実践できる。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠分娩産褥期・新生児の生理的变化・心理社会的変化を理解できる。</li> <li>2. 産褥期・新生児の看護過程を展開できる。</li> <li>3. 妊娠期から分娩産褥期における継続看護を理解できる。</li> <li>4. 保健医療チームの一員としての看護者の役割が理解できる。</li> <li>5. 母性看護の対象の理解を深めるとともに、母性看護の活動の実際を学ぶ。</li> <li>6. 実習を通して生命の尊厳・倫理について自己の考えを深めることができる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
実習日数	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の決定 ・受け持ち対象の情報収集 ・カンファレンス	実習	
2 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の看護過程の実践を行う。 ・カンファレンス	実習	
3 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の看護過程の実践を行う。 ・受け持ちに対象に必要な保健指導を考える。 ・事例検討 (2 事例)	実習	
4 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の看護過程の実践を行う。 ・受け持ち対象に必要な保健指導を 1 つ実践する。 ・中間評価	実習	
5 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の決定 ・受け持ち対象の情報収集 ・カンファレンス	実習	
6 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の看護過程の実践を行う。 ・事例検討 (2 事例)	実習	
7 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	・受け持ち対象の看護過程の実践を行う。 ・受け持ちに対象に必要な保健指導を考える。 ・カンファレンス	実習	

実習日数	学習課題	学習内容	授業方法	担当	
8 日目	病棟実習 (産褥、新生児受け持ち)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け持ち対象の看護過程の実践を行う。</li> <li>受け持ち対象に必要な保健指導を1つ実践する。</li> <li>カンファレンス</li> <li>集団指導見学</li> </ul>	実習		
9 日目	外来実習 (妊婦受け持ち)	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦検診の実際を見学する。</li> <li>妊婦に対する保健指導の見学。</li> <li>産褥2週間検診、1ヶ月検診を見学</li> </ul>	実習		
10 日目	分娩見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>分娩第1期後半から受持ち、疼痛緩和援助を実践する。</li> <li>分娩の瞬間の見学を行う。</li> <li>分娩後2時間までの看護を見学する。</li> <li>胎盤計測の実際を行う。</li> <li>出生直後の新生児の計測を見学する。</li> </ul>	実習		
11 日目	ハイリスク妊婦の看護の見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイリスク妊婦への看護の見学を行う。</li> <li>コミュニケーションを図り、妊婦が抱えている問題の把握を行う。</li> <li>NSTの装着および判読を行う。</li> </ul>	実習		
12 日目	NICU・GCU 見学実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>低出生体重児、先天性疾患を持った児の看護の実際を見学する。(薬物療法、酸素療法、栄養など)</li> <li>ディベロップメンタルケアの実際を見学する。</li> <li>家族とコミュニケーションをとり、家族の思いを理解する。</li> <li>家族看護について見学をする。</li> </ul>	実習		
授業内訳	実習：12日間(7.5時間×12 90時間)				
<b>準備学習等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>沐浴、授乳、新生児のバイタルサインの測定、妊婦の子宮底・腹囲測定の技術を習得しておくこと。</li> <li>母性看護過程(事例)を仕上げておくこと。</li> <li>風邪を引いていないこと。</li> </ul>					
成績評価の方法	評価基準に沿って評価する。 実習 100% 成績評価の基準：60点以上を合格 80点以上100点までA 70点以上80点未満B 60点以上70点未満Cの評価となる。 60点未満は再試験を受験し60点以上を合格 評価はCとなる				
テキスト	母性看護 [1] 概論 有森裕子編著 医歯薬出版株式会社 母性看護 [2] 周産期各論 有森裕子編著 医歯薬出版株式会社 国民衛生の動向 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メジカルフレンド社				
参考図書	病気がみえる 産科 vol10 メディックメディア				
備考	欠席が1/3を超える場合評価基準外とする。				
国家試験出題基準	母性看護学 目標Ⅰ-1-A-a～d 目標Ⅰ-1-B-a～d 目標Ⅰ-1-C-a～d 目標Ⅰ-1-D-a～e 目標Ⅰ-1-E-a～e 目標Ⅱ-2-A-a～g 目標Ⅲ-3-A-a～e 目標Ⅲ-3-B-a～f 目標Ⅲ-4-A-a～f 目標Ⅲ-4-B-a～n	母性看護学 目標Ⅲ-4-C-a～f 目標Ⅲ-4-D-a～k 目標Ⅲ-5-A-a～c 目標Ⅲ-5-B-a～h 目標Ⅲ-5-C-a～c 目標Ⅲ-5-D-a～e、 目標Ⅲ-6-A-a～f 目標Ⅲ-6-B-a～j 目標Ⅲ-6-C-a～h、	母性看護学 目標Ⅲ-6-D-a～g、 目標Ⅲ-7-A-a～k 目標Ⅲ-7-B-a～n 目標Ⅲ-7-C-a～i 目標Ⅲ-7-D-a～h 目標Ⅳ-8-A-a～d 目標Ⅳ-8-B-a～d 目標Ⅳ-8-C-a～e、		

科目番号 84

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	精神看護学臨地実習	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位/	90 時間/	12 日間	
授業の種類	講義	・ 演習	・ <b>実習</b>	・ 実験 ・ 実技
必修・選択	<b>必修</b>	・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期
履修条件	<b>有</b> ・ 無 ( 1,2 年次の全ての単位の取得 )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉 精神の健康増進と精神に障害を持つ人とその家族を総合的に理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害を持つ人とその家族との関わりから、その人を一人の人間としてありのままに受け止め尊重し理解を深める。</li> <li>2. 精神に障害を持つ人の症状と日常生活を理解することができる。</li> <li>3. 精神に障害を持つ人の日常生活において必要な援助を考えることができる。</li> <li>4. 精神に障害を持つ人の社会復帰活動を通して、社会資源や継続看護について理解できる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
日数 (1日 7.5h)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	目標 1	病院・病棟の概要と実習環境 生活の場としての環境 精神に障害を持つ人の理解 関心を持ってともに行動することの必要性	実習	
2	目標 1	精神に障害を持つ人の理解 関心を持ってともに行動することの必要性	実習	
3	目標 2	自己の関わりと自己理解 客観的観察	実習	
4	目標 2	健康面、生活習慣、対人関係の観察	実習	
5	目標 2	治療・療法が及ぼす影響 安心な治療的環境 対象理解と今後の方向性	実習	
6	目標 3	対象の思い・考えへの支援 生活のしづらさへの支援 その人らしい暮らしと生活の維持	実習	
7	目標 3	医療チーム一員としての援助	実習	
8	目標 3	実習の学びと今後の課題	実習	
9	目標 4	社会的支援の実際 (社会資源、継続支援)	実習	
10	目標 4	社会的支援の実際 (社会資源、継続支援)	実習	

日数 (1日7.5h)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
11	目標4	社会的支援の実際（社会資源、継続支援）	実習	
12	目標4	社会的支援の実際（社会資源、継続支援）	実習	
授業内訳	実習：12日間（7.5時間×12 90時間）			
準備学習等				
必要時担当教員から伝達あり				
成績評価の方法	実習記録、実習態度、出欠席などを実習の全過程を総合的に評価 成績評価の基準：60点以上を合格 80点以上100点までA 70点以上80点未満B 60点以上70点未満Cの評価となる。 60点未満は再試験を受験し60点以上を合格 評価はCとなる。			
テキスト	精神看護学[1][2] 医学書院			
参考図書				
備考				
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅲ-11-A-u～y 目標Ⅲ-11-B-d	精神看護学 目標Ⅱ-2-A～L 目標Ⅲ-3-A～C 目標Ⅳ-4-A～G 目標Ⅴ-5-A 目標Ⅴ-6-A～C		

科目番号 85

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	在宅看護論臨地実習	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位 / 90 時間 / 12 日間			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期	
履修条件	<b>有</b> ・ 無 ( 1,2 年次の科目が全て単位取得できており、履修年度に卒業が見込みの者)			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 保健師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々の特徴を理解し、支援体制や社会資源、関係法規を知る。</li> <li>2. 保健・医療・福祉の連携と継続看護について理解する。</li> </ol> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養者とその家族の特徴が分かり、必要な在宅看護が分かる。</li> <li>2) 在宅療養者を支える介護力についてアセスメントでき、必要なサービスについて理解できる。</li> <li>3) 地域で生活するあらゆる健康のレベルにある人々の健康を支える社会的制度や支援システムについて理解できる。</li> <li>4) 地域での保健福祉活動の実際を通して、保健・医療・福祉の連携と予防看護や継続看護を理解できる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
回数 (時間)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
2.5 時間	目標 1～4	在宅臨地実習オリエンテーション	学内	担当 教員
7.5 時間/日 × 1 日	目標 3・4	県域または政令市の福祉保健センターにて 2～10 名のグループ構成で実施する 福祉保健センターの事業、役割について説明を受け、 保健福祉活動の理解につなげる	臨地実習	担当 教員
7.5 時間/日 × 6 日 45 時間	目標 1～4	<p>〈実習構成〉 指定された実習施設（実習病棟）に 2～8 名/グループ 構成で実施する。 実習時間 : 8:15～16:45 うち訪問看護ステーション実習: 9:00～16:00 (カンファレンス時間含む)</p> <p>〈期間内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションを受け実習に必要な事項を確認する</li> <li>2. 情報収集を行い、アセスメントし看護上の問題点を抽出する</li> <li>3. 受け持ち患者に必要な看護を実践・評価する</li> <li>4. 情報収集を行い、1 日 2 件の訪問看護に同行させてもらう。</li> <li>5. カンファレンスに主体的に参加する</li> </ol> <p>* 詳細は実習要項参照</p>	臨地実習	担当 教員

回数 (時間)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
7.5時間/日 ×1日	目標3・4	JCHO 横浜中央病院 退院調整室にて 4～5名のグループ構成で実施する 退院調整看護師の役割について学ぶ	臨地実習	担当 教員
2時間	目標1～4	中村特別支援学校導入講義	学内	外部 講師
6.5時間/日 ×2日	目標1～4	横浜市立中村特別支援学校 8～10名のグループ構成で実施する 法的根拠をもとに特別支援学校の役割を理解し、 児童、生徒および家族への支援の実際について学ぶ	臨地実習	担当 教員
7.5時間/日 ×1日	目標2・3	反町福祉機器支援センター 8～10名のグループ構成で実施する 在宅療養者の自立支援を促す福祉機器を実際に見学 し、自立支援への理解を深める。 また、在宅の住宅改修・改造のモデルを見学し、そ の意義や目的についてわかる	臨地実習	担当 教員
3時間	目標2～4	地域包括支援センター 30名のグループ構成で実施する 在宅療養者を支援する地域包括支援センターの役割 について学ぶ	臨地実習	担当 教員
2時間	目標3・4	保健福祉センターまとめの報告会	学内	担当 教員
授業内訳	臨地実習：訪問看護ステーション6日間（7.5時間×6 45時間） 入院退院調整室実習：1日間（計7.5時間）地域包括支援センター半日間（3時間） 支援学校2日間（6.5時間×2 13時間）福祉機器センター：1日（7.5時間） 福祉保健センター：1日（7.5時間）学内実習：（計6.5時間）			
<b>準備学習等</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>各発達段階と各発達課題、身体的・精神的・社会的特徴と健康段階に応じた看護について復習する。</li> <li>看護の基本技術について復習する。コミュニケーション、環境整備、休息・睡眠、運動、食、排泄、清潔への援助、与薬の援助</li> <li>「3年間で習得する看護技術」の技術項目について習得するための学習を行う（経験していない技術を中心に）</li> <li>成人期・老年期に代表的な機能障害や疾病について、自己学習（メカニズム、検査、治療、看護）する。コミュニケーション障害、ADLの障害、脳梗塞、虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧、肺炎、肝硬変、糖尿病、腎不全、骨折（大腿骨頸部骨折など）、変形性膝関節症、長期臥床状態、廃用性症候群、老人性認知症、精神障害、骨粗鬆症、等</li> <li>訪問看護の機能と役割、看護管理、医療安全、継続看護について復習、学習する。</li> <li>保健・医療・福祉の動向について復習する。</li> <li>医療福祉チームの役割やメンバー構成等を学習する。</li> <li>実習する病院の地域の特徴を学習、復習する。</li> <li>訪問看護制度と法的枠組みについて復習する。</li> <li>地域密着型サービスの種類とその内容について復習する。</li> <li>保健福祉センター実習では、健康増進法・次世代育成支援対策推進法・母子保健法・予防接種法・障害者自立支援法等の各関係法規を学習、復習する。</li> <li>実習する保健福祉センターの地域の特徴を学習、復習する。</li> <li>特別支援学校では、障害者自立支援法・学校教育法等の関係法規とノーマライゼーションの復習をする。 ・実習前目標レポートあり *詳細は実習前オリエンテーションにて提示 &lt;復習について&gt; ・実習内容をレポートにまとめる（発表あり） ・実習後レポート提出</li> </ol>				

成績評価の方法	<p>担当教員は、提出された記録や出席状況・実習状況により一次評価を行い、実習指導者と協議し、在宅看護論臨地実習評価基準で総合的に評価する。</p> <p>成績評価の基準：60 点以上を合格</p> <p>80 点以上 100 点まで A 70 点以上 80 点未満 B 60 点以上 70 点未満 C の評価となる。60 点未満は再試験を受験し 60 点以上を合格 評価は C となる。</p>
テキスト	<p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>
参考図書	必要時提示する
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習、実習場所の日程は入れ替わることもある</li> <li>2. 訪問看護実習場所は横浜中央病院・相模野病院・横浜保土ヶ谷中央病院とする</li> </ol>
国家試験出題基準	<p>在宅看護論</p> <p>目標 I～III</p>

科目番号 86

分野	基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野・ <b>臨地実習</b>			
授業科目	看護の統合と実践臨地実習	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	2 単位/ 90 時間/ 12 日間			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	3 年次・前後期	
履修条件	<b>有</b> ・ 無 ( 1,2 年次の科目が全て単位取得できており、履修年度に卒業が見込みの者)			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師・保健師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師・助産師 )		
<b>学習目的と到達目標</b>				
<p>〈学習目的〉 既習の知識・技術・態度を統合し、チームメンバーの一員としての看護実践能力を養う</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全領域看護学臨地実習での学びを統合し、課題解決をすることができる。</li> <li>2. 固定チームナーシングの一員として看護の実際と責任がわかる。</li> <li>3. 固定チームナーシングにおけるリーダーとメンバーの協力・調整の実際がわかる。</li> <li>4. 看護管理者の役割、業務内容がわかる。</li> <li>5. 他職種との協力・調整の実際がわかる。</li> <li>6. チームにおいて 24 時間継続される看護の実際がわかる。</li> <li>7. 夜間の患者の状況を知り、患者を統合された生活体として理解する。</li> <li>8. チームメンバーの一員として、役割と責任について考えることができる。</li> </ol>				
<b>授 業 計 画</b>				
回数 (時間)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1 (8 時間)	病棟の特徴と主な疾患	病院実習オリエンテーション 事前学習 実習準備	学内実習	担当 教員
2 (8 時間)	病棟の機能・構造等の概要、チームナーシング等	病棟オリエンテーション メンバー実習 (シャドウイング)	病棟実習	担当 教員
3 (8 時間)	看護管理者の役割 リーダーとメンバーの協力・調整	管理実習 (シャドウイング) リーダー実習 (シャドウイング)	病棟実習	担当 教員
4 (8 時間)	チームメンバーの役割と責任	メンバー実習 (複数の対象を担当し、実習計画の追加・修正を行い優先度の判断をして日常生活援助を実施する)	病棟実習	担当 教員
5 (4 時間)	チームメンバーの役割と責任	夜勤前実習 (メンバー実習) 8 : 00～12 : 00	病棟実習	担当 教員
6 (8 時間)	継続看護、不眠時の対応	深夜勤実習 (メンバー実習) 23 : 30～8 : 30	病棟実習	担当 教員
7 (8 時間)	チームメンバーの役割と責任	メンバー実習	病棟実習	担当 教員

回数 (時間)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
8 (8時間)	チームメンバーの 役割と責任	メンバー実習 まとめの会	病棟実習	担当 教員
9 (7.5時間)	チームナーシング・他職種連携の 実際	管理・リーダー、夜間実習まとめ	学内実習	担当 教員
10 (7.5時間)	援助の場面からの 危険予測	KYT (食事介助、トイレの排泄介助、歩行介助)	学内実習	担当 教員
11 (7.5時間)	優先順位の判断	多重課題 (ロールプレイシミュレーション)	学内実習	担当 教員
12 (7.5時間)	対象の状況に応じた 看護技術の習得	演習 (未経験の看護技術の体験、今まで経験した 看護技術の習得)	学内実習	担当 教員
授業内訳	病棟実習：7日間(52時間)、学内実習：5日間(38時間)			
<b>準備学習等</b>				
<p>1.成人期・老年期の発達段階と発達課題、身体的・精神的・社会的特徴と健康段階に応じた看護について復習する。</p> <p>2.看護の基本技術について復習する。コミュニケーション、環境整備、休息・睡眠、運動、食、排泄、清潔への援助、与薬の援助</p> <p>3.「3年間で習得する看護技術」の技術項目について習得するための学習を行う(経験していない技術を中心に)</p> <p>4.成人期・老年期に代表的な機能障害や疾病について、自己学習(メカニズム、検査、治療、看護)する。コミュニケーション障害、ADLの障害、脳梗塞、虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧、肺炎、肝硬変、糖尿病、腎不全、骨折(大腿骨頸部骨折など)、変形性膝関節症、長期臥床状態、廃用性症候群、老人性認知症、精神障害、骨粗鬆症、等</p> <p>5.病棟の看護の機能と役割、看護管理、医療安全、継続看護について復習、学習する。</p> <p>6.保健・医療・福祉の動向について復習する。</p> <p>7.医療チーム(NST、褥瘡対策チーム、糖尿病ケアチーム、医療安全チーム、緩和ケアチームなど)の役割やメンバー構成等を学習する。</p> <p>8.実習する病院の地域の特徴を学習、復習する。</p> <p>※上記学習は活用できるようにまとめて、各自実習場所に持参する。(必要時提出求められる)</p> <p>※実習する病棟の特徴を考えて学習する。</p>				
成績評価の方法	<p>担当教員は、提出された記録や出席状況・実習状況により一次評価を行い、実習指導者と協議し、看護の統合と実践臨地実習評価基準で総合的に評価する。</p> <p>成績評価の基準：60点以上を合格</p> <p>80点以上100点までA 70点以上80点未満B 60点以上70点未満Cの評価となる。60点未満は再試験を受験し60点以上を合格 評価はCとなる</p>			
テキスト	<p>系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院</p>			
参考図書	必要時提示する			
備考	<p>1.学内実習、病棟実習の日程は入れ替わることもある</p> <p>2.実習場所はJCHO横浜中央病院とする</p>			
国家試験出題基準	<p>看護の統合と実践</p> <p>目標IV-4-A～C, H</p>			

